

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX:0595 (21) 8839

E-Mail:iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 A-7 「俳句研修」を実施しました！

「俳句 それはね・・・」

【講師】芭蕉翁献詠俳句 児童生徒の部 選者

岡島 千秋さん 松村 咲子さん



7 月 23 日(木)に、「俳句研修」を菰虫庵にて行いました。

庵から見える庭には、万緑の季節を迎えた木々たちが葉を伸ばし、目にも鮮やかで、季節を感じながら受講することができました。

まず講師の先生方から、俳句づくりにおいて必須である 2 つの事柄をご教示いただきました。一つ目は「何と言っても体験。体験が大事」ということです。

例えば「トマトを見る。切る。かじる・・・そんな体験の後に五感を働かせて

自作する」ことで、「いろんなことを俳句にできると子どもたちが実感する。それがよりよい俳句づくりにつながる」とご教示いただきました。「いろんなことを俳句にできるということは、俳句をつくる上で、子どもたちに希望をもたらす」という言葉が印象的でした。二つ目には「推敲」です。「言葉を選んでるか、省略されていても言いたいことが独りよがりではなく正しく伝わるか」など、推敲のポイントも教えていただきました。

その後、菰虫庵の敷地にある庭を巡ったり茶室に行ったりしながら、五感を働かせ、句をしたため投句しました。講師の先生方からも「さすが、いい句やね」「季語の選び方がいいですね」というお言葉をいただく程、どの句も情景が目浮かぶ素敵な句ばかりでした。

ご参加いただいた先生方には今後の実践に活かしていただくとともに、各校で還流いただきますようお願いいたします。



アンケートより【一部抜粋】

・私は伊賀市外の出身で、子どもと俳句を学習する時に、どのように指導するか迷い、困ることが多かったです。今日お話を聞かせていただき、俳句をつくらせていただくことで、俳句をつくる楽しさ、難しさ、評価について学ぶことができました。【小】

・外国にルーツをもつ児童を担当しているので、体験が大切ということがよくわかりました。何回も声に出して読ませることや、字をきれいに書く、順番を入れ替えて何度も考えていくなど、1 年生や低学年の児童にも指導していく上での大切なポイントを教えていただき、ありがとうございました。【小】

・菰虫庵を見て回って、俳句をつくるために細部をじっくり見るということがどういうことかがわかりました。この機会がなければ、菰虫庵に来ることも、こんなに辺りをじっと見て俳句をつくることもなかったと思います。2 学期以降、活かしていきたいです。【中】

・俳句のつくり方、指導の方法、たくさん学ばせていただきました。菰虫庵で実際に俳句をつくることで、自然の中でのなんともないことを見つけることの良さに改めて気づきました。俳句の指導をする際は、一歩外に出ることを実践してみたいと思いました。【中】